

本検証における統計手法・用語について

本検証結果報告書において利用した統計手法、用語については、以下の書籍によって全体的な理解を得ることができる。また、個別の分析における分析手法、用語等に関して定義、解説が与えられている箇所を、簡単な用語解説を含めて表の形で示した。

東京大学教養学部統計学教室 編

- ・『統計学入門』基礎統計学Ⅰ，東京大学出版会，1991.
- ・『人文・社会科学の統計学』基礎統計学Ⅱ，東京大学出版会，1994.
- ・『自然科学の統計学』基礎統計学Ⅲ，東京大学出版会，1992.

※ 以下においては、『統計学入門』を『入門』、『人文・社会科学の統計学』を『人文・社会』、『自然科学の統計学』は『自然科学』と省略する。

第Ⅱ章

項	用語	参考文献・解説
2.1, 3	χ^2 検定	『入門』第 12 章
2.1, 3	t 検定	『入門』第 12 章

第Ⅲ章

1. 中期目標の達成状況評価に関する分析

項	用語	参考文献・解説
1.1	水準	『人文・社会科学』第 13 章
1.1	二元配置分散分析（対応あり）	『自然科学』第 3 章「繰り返しのない 2 元配置」
1.1	主効果	『自然科学』第 3 章, 第 5 章
1.1	有意	『入門』第 12 章
1.1	F	『入門』記号表
1.1	p	『入門』記号表
1.1	η_p^2	分散分析で用いられる効果量の一種
1.1	交互作用	『自然科学』第 3 章
1.1	単純主効果の検定	交互作用が見られた場合に水準ごとに個別に差を調べる方法
1.1	Bonferroni 法による多重比較	複数の群が分散分析で見られたときに、どの水準間で差が見られたかを明らかにする手法の一種
1.2	度数	『入門』第 2 章

2. 学部・研究科等の現況分析に関する分析

項	用語	参考文献・解説
2.1	二元配置分散分析（混合計画）	2つの要因（一方に対応があり、もう一方に対応がない）がある場合の分散分析
2.1, 2.2	被験者内要因	同じ対象に対して繰り返し測定がなされている要因
2.1	被験者間要因	水準ごとに異なった対象に対して測定されている要因
2.1, 2.2	水準	『人文・社会科学』第13章
2.1, 2.2	有意	『入門』第12章
2.1, 2.2	Bonferroni 法による多重比較	複数の群が分散分析で見られたときに、どの水準間で差が見られたかを明らかにする手法の一種
2.1	標準誤差	『入門』第13章
2.1, 2.2	主効果	『自然科学』第3章, 第5章
2.1, 2.2	F	『入門』記号表
2.1, 2.2	p	『入門』記号表
2.1, 2.2	η_p^2	分散分析で用いられる効果量の一種
2.1, 2.2	交互作用	『自然科学』第3章
2.1	効果量	『人文・社会科学』第13章
2.2	二元配置分散分析（対応あり）	『自然科学』第3章「繰り返しのない2元配置」
2.2	対応のあるデータ	同じ対象に対して複数の条件下で測定を行ったデータのこと
2.2	球面性の仮定	被験者内要因の分散分析を適用する際に前提とされる分散の等質性に関する仮定
2.2	Greenhouse-Geisser の方法による自由度の補正	球面性の仮定が保持されない場合に、自由度を調整するための手法の一種
2.2	自由度	『入門』第9章 自由に動ける変数の数
2.2	単純主効果の検定	交互作用が見られた場合に水準ごとに個別に差を調べる方法

3. 研究業績水準判定に関する分析

項	用語	参考文献・解説
3.1	信頼性	『人文・社会科学』第12章
3.1	順序尺度	『入門』第2章
3.2	階級	『入門』第2章
3.2	標準偏差	『入門』第1章, 第5章

4. データ分析集と評価結果の関係

項	用語	参考文献・解説
4.1, 4.2	相関係数	『入門』第1章, 第3章
4.1	比尺度	『入門』第2章
4.1	順序尺度	『入門』第2章
4.2	有意	『入門』第12章

また、さらに詳しい解説は総務省統計局が公開している用語集や日本産業規格を参照されたい。

●総務省統計局 (<https://www.stat.go.jp/index.html>)

統計学習の指導に携わる教員に向けた「統計学習の指導のために」の補助教材(基本用語集)
児童・生徒向け学習コンテンツ「なるほど統計学園」内の参考資料(統計用語辞典)

●日本産業規格

JIS Z 8101-1 (統計－用語及び記号－第1部：一般統計用語及び確率で用いられる用語)

JIS Z 8101-2 (統計－用語及び記号－第2部：統計の応用)

JIS Z 8101-3 (統計－用語と記号－第3部：実験計画法)